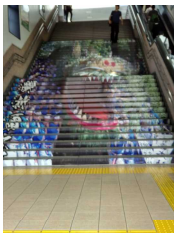
令和６年度　現地研修会

脚 折 雨 乞

昨年度から始まった現地研修会、今年度は鶴ヶ島市が誇る「脚折雨乞」に参加しました。



－若葉駅の巨大龍蛇－

コロナ禍で中止を余儀なくされていた「脚折雨乞」。８年ぶりの開催が決まって、街は大盛り上がり。若葉駅には巨大な龍蛇が出現しました。

８月４日の正午。良すぎるぐらいの晴天下、入魂の儀を終えて龍神となった龍蛇（全長３６メートル、総重量３ｔ）。屈強な担ぎ手３００人を引き連れて渡御、街の安全を祈願するため市中を回ります。もちろん、我が鶴楽会からの勇者も龍神とともに練り歩きます。

気温３６度の中、２㎞の旅路をおよそ２時間半かけて雷電池（かんだちがいけ）に辿り着き、龍神は一声あげるように天を仰ぎ、やがて３００人の担ぎ手とともに滑るように池に入っていきます。

「あめ降れ　たんじゃく　ここに懸かれ　黒雲」の降雨祈願の声とともに池を３周し、静かに水面に置かれた龍神は解体され昇天の時を迎えました。

－小中学生によるミニ龍蛇雨乞－

江戸の昔から、雨の少ないこの地に恵みの雨が欲しい、という切なる願いで毎年続けられてきた「雨乞」でしたが、社会の発展とともに一度は途絶えてしまいます。しかし、人々の熱い想いは再び「雨乞」に向けられるようになりました。そして、新たに人々の絆を結ぶという願いが込められた「脚折雨乞」が復活しました。

今年度は「脚折雨乞」に先んじ、小中学生による「ミニ龍蛇雨乞」も執り行われました。このことは単に行事を引き継ぐというだけでなく、地域の未来を受け継ぐ立つ若者が育てられているように感じます。４年に一度執り行われるこの「脚折雨乞」、今では国選択民俗文化財に選定され、鶴ヶ島市の重要な無形文化財に指定されています。

この現地研修会で「脚折雨乞」に魅了された鶴楽会会員は、この日の活動が終わったあとも興奮が冷めやらず、近隣のレストランに場を移し、鶴ヶ島市が誇る伝統行事「脚折雨乞」について語り合っていました。